

# 令和4年度第1回奈良県文化振興戦略懇話会開催概要

- 1 開催日時：令和4年7月7日（木）15：30～17：00
- 2 会場：ホテル リガーレ春日野 吉野の間
- 3 テーマ：
  - ①奈良公園内における文化の展示力向上について（高度な案内書）
  - ②県有文化施設の連携及び周辺環境の整備について
- 4 出席者：井上委員、上野委員、千田委員、長谷川委員、藪内委員、王委員、荒井知事

## 5 議事概要

懇話会は非公開で開催。

委員からの主な意見は以下とおり。

### 【主な意見】

- ・ポスト資本主義の時代となり、経済より芸術・文化が重要視され始めている。文化活動により豊かさや寛容さをどう深めていくか。
- ・ハードとソフトの両面が重要。核となる文化施設とそれらの結節が大事であり、結節を抽象的にするとイベント連携となる。また、共通のテーマでの展示等により理解を深めることができる。
- ・歴史文化の理解はおいそれとはできないが、それを奈良でできる仕掛けを作っていないかと考えている。文化は必要条件で食は充分条件という考え方で、「楽しい」をクリエイトしないといけない。
- ・文化施設を巡るリムジンバスがあれば活性化につながる。
- ・共通のテーマで連帯感を持って展示やイベントを実施するための場を設けることが必要。
- ・知りたいことの輪郭を提示できれば、周遊を促進することができる。アクセスに交通機関は必要だが、エコの視点が大切。
- ・文化的な楽しみの他にも楽しいことがないと学びの息が切れる。五感すべてを楽しませる工夫が必要。
- ・奈良県の文化資源は広範に及ぶため、アクセスは真剣に考えないといけない。
- ・勉強する場だけでは人は来ない。奈良にある四季折々の自然も大切なハードの一つと捉え、それらを楽しんで広めてもらう事も重要。

- ・奈良は、日本発祥の地であり、中国の歴史を知る上でも非常に重要。奈良の文化資源を活用した平和交流という視点もある。
- ・学術交流だけでなく同じテーマでの展覧会開催、そのための情報交換の場が必要。
- ・連携においては「棲み分け」と「意外性」のマッチングが大切。橿原考古学研究所、飛鳥資料館、万葉文化館を巡れば、平城遷都以前の時代が分かる。
- ・奈良は文化資源がありすぎて絞れない。共通のテーマをもってイベントなどをするのであれば、3、4年先を見据えて連携することが重要。

以上